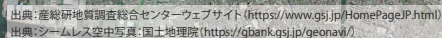
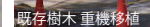


名古屋城から新堀川を経て名古屋港にいたる水と緑のネットワークを意識した3つのグリーンインフラ

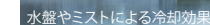


公園と名古屋城との関係性



- 水盤およびドライミストを用いることで夏場の暑い時期に効果的な冷却作用や、大きく成長した既存樹木を活かすことで、樹木の葉による蒸散効果と緑陰形成による冷却効果を期待し整備を行いました。
- 礫間貯留層を基盤材として用いることで「保水」「浸透」「空隙率」の観点から都心の環境インフラとしての都市環境改善の様々な効果を期待し整備を行いました。

- ① 雨水の「保水」「浸透」による打ち水効果により快適な空間を提供
- ② 「保水」された水分を樹木の根が吸収し、蒸散作用による冷却効果
- ③ 「浸透」性が高いため雨水流出抑制としての機能を果たす治水対策
- ④ 「空隙率」が高いため根を誘引することによる根上がり防止効果
- ⑤ 「空隙率」が高いため保水能力が高まり緑の良好な生育環境に貢献



芝生の基盤材に礫間貯留槽を敷設

木陰や蒸散作用
による冷却効果

2.交流のインフラ

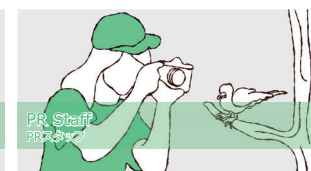
豊かなパークライフを実現する特徴ある
「5つのヒロバ」と「1つの大きなテラス」の創出

- 北エリアでは、既存樹木のケヤキ並木に囲まれた多世代が多目的に活用できる「ケヤキヒロバ」「シバフヒロバ」と、現状のレベルを生かした緑豊かなヒーリングテラスをつくりました。
- テレビ塔エリアでは、テレビ塔を象徴化する「テレビーヒロバ」「ミズベヒロバ」、地下と地上をスムーズにつなげる「メディアヒロバ」をつくりました。「テレビーヒロバ」はイベント対応可能な斜面状の芝生を整備し、「ミズベヒロバ」は、水盤に映し込んだテレビ塔の姿を楽しむことができ、観光ディスティネーションとしての引力を有すると共に、名古屋の新たなシンボル空間となりました。



地域住民と一緒に公園づくり

- 公園の楽しみ方や過ごし方を一緒に考え、一緒に盛り上げていくボランティアを募集し運営することで、久屋大通パークへの愛着を地域住民の方にもってもらえるような公園づくりを行っています。
- ボードゲームやピクニック用のワンタッチテント、本や絵本などの貸し出しができるパークワゴンを設置し、公園内をさらに楽しめるしかりを用意しています。
- 公園がより活性化するよう、公募対象公園施設と一緒に広場を活用した多種多様なサービスを提供しています。



3.防災・減災のインフラ

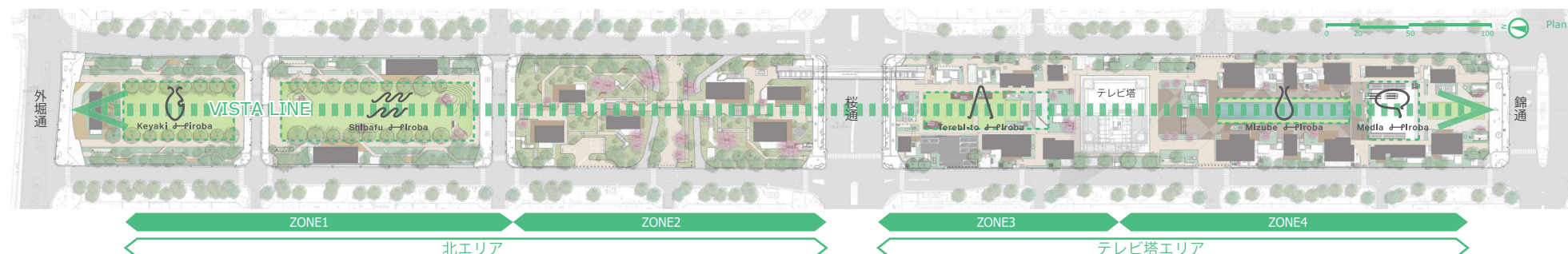
安心・安全な公園

- 広域避難場所を常に身近に感じることが減災へとつながるステップアップだと考え、身近に感じるための2つの仕組みを実施しました。
 - ① 平常時イベントや、多目的広場として使用する5つの広場を災害時には広域避難場所と広域避難経路として利用できるようにしました。
 - ② 見通しの悪い現在の公園から東西見通しの良い公園とすることで外からでも広域避難場所を視認できるようにしました。
- 広域避難場所付近には大型トラックが駐車でき、消防隊が活動しやすい配置計画としました。
- 災害時には名駅周辺と対をなし名古屋市全体のリダンダンシーを高めることに貢献できる公園となるよう整備しました。



空間構成

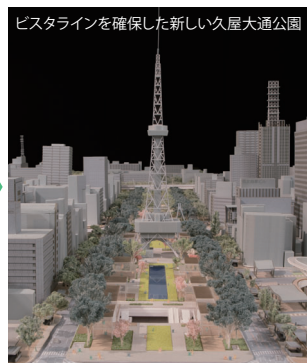
テレビ塔を中心としたシンボリックなビスタラインの景観軸を形成



1. テレビ塔のシンボル性の強化

テレビ塔を中心とした明快なビスタラインを形成

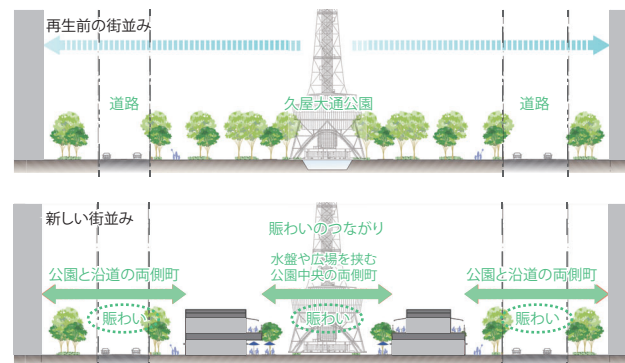
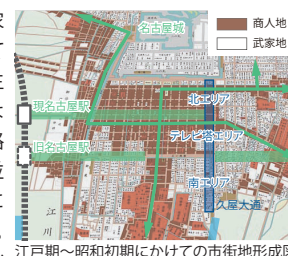
- 全長約1 kmにわたる公園内は、南北軸に明快なビスタラインを形成する空間構成により、どこにいてもテレビ塔を感じられる風景を創出しました。ビスタライン上には、目的性の違う「5つのヒロバ」と「一つの大きなテラス」を構成し、その機能を促進させる施設群を両脇に配置することで、豊かなパークライフの実現を目指しました。
- 健全な樹木環境に向けた密度調整や、ビスタラインを妨げていた公園内の既存施設(排気口など)は移設・撤去を行い、テレビ塔の景観資源をバージョンアップさせるためのシンボリックな空間をつくりながら見通しを確保しました。
- 南北に連なるクスノキの既存樹木は残置することによって久屋大通の樹木環境の景観および戦災復興時以来の防火帯構想を継承しました。



2. 街に開かれた公園

江戸期の両側町に見立てた街並みの継承

- 江戸期の久屋大通は商人地と武家地の境界部でもあり、両側町として発展していました。多様な交流が生まれていた場を歴史になぞらえながら、久屋大通の特徴でもある道路を挟んで向かいあう両側町の街並みを新たな配置計画によって、街に開かれた公園として再生しました。
- 古き良き街並みを現代版にアレンジしつつ、公園と沿道が一体となった景観整備に配慮し整備しました。



公園内のアクティビティが視認できる4つの手法

- 再生前の公園はクスノキやヘデラの密植により、周辺から公園内のアクティビティを視認することができない状況でした。閉鎖的な公園から街に開かれた公園となるよう、下記4つの手法を用い改善を図りました。
- 癒しと賑わいにあふれた公園は、魅力向上のみならず街の資産価値向上に寄与する公園へと生まれ変わりました。

